科目名	国際協力論A			コード	53048
担当教員	岡島 克樹			単位数	2
配当	人社2	講時	金曜日3限	単位数	2
開期	前期	講時	金曜日3限	単位数	2
授業テーマ	日本と途上国とはどのようなつながりがあるのかを考える。				
目的と概要	グローバル化(さまざまな定義があるが、本講では「人・モノ・カネ・情報が大量にかつすばやく行き交うプロセスとその結果」と定義している)とは何かを理解することなしに、本学部が探究する「人間」とは何か、「社会」とは何かという問いを考えることはできない。そのため、本講では、とくに人とモノの越境的移動について取り上げて講義等を行う。より具体的には、(1)グローバル化の定義や諸性質(統合と分裂という矛盾性や格差の拡大という不平等性等)、類似概念との相違(「国際化」と「グローバル化」)、多文化共生についての基本的な知識を獲得する、(2)グローバル化が与える具体的な諸影響(食や職の安全等)とこれに対する日本国内の動きについて理解できるを学習到達目標として設定し、講義を展開する。				
成績評価法	授業への参加・協力(発言・グループワーク、外部講師招聘時の参加)(30%)、期末レポート(70%)				
テキスト	特に定めない。				
参考書	必要に応じて紹介する。				
履修に当たっての注意・助言/準備学習	「地域研究実習1」「地域研究実習2」の一環として実施するカンボジアスタディツアーでは実際にカンボジアで事業を展開する政府機関や非政府組織の事務所を訪ね、職員の方々からお話を伺う。したがって、「国際協力論」と「地域研究実習」のカンボジアスタディツアーの間には強い関連があるので、スタディツアーに参加を希望している学生諸君には「国際協力論」の履修を強く勧めたい。 適宜、参考図書を伝えるので、可能な限りこれらに目をとおすことを奨励する。				
講義計画					
【基本的な考え方】講義は、グローバル化に関する文献読解や講義のほか、日本のグローバル化理解教育の中で最近用いられている開発教育ゲームの体験、日本人の消費行動と途上国における生産活動の関係について扱った映像教材や難民家族を扱ったドキュメンタリー番組の視聴、実際にグローバル化の諸課題に対応する活動を行ってこられた方々を学外から招き外部講師としてお話いただく授業の聴講などをバランスよく振り分け、途上国と先進国が持つつながりという普段あまり意識しない問題について、「気づき」を大切に授業をこころがける。 【具体的なスケジュール】 1. はじめに：本講の学士力上の意義とその構成・評価等に関する説明 2. グローバル化とは何か—本講担当教員を含むさまざまな研究者による定義の紹介 3. モノを通じたつながり—「貿易ゲーム」体験 4. モノを通じたつながり—「コーヒーゲーム」体験 5. モノを通じたつながり—グローバル化の基本性質に関する講義 6. 中学校・高校におけるグローバル化教育に関する講義 7. モノを通じたつながり—視聴覚教材『あぶない野菜』紹介とグローバル化の諸影響に関する講義 8. ヒトを通じたつながり—『絆・パパを返して—難民家族の6年の記録』視聴と難民問題の解説講義 9. ヒトを通じたつながり—難民問題の概要および対応の解説(外部講師) 10. ヒトを通じたつながり—難民問題に対する学生の活動と難民の方々との対話(外部講師) 11. 多文化共生とは何か—政府と自治体の政策に関する講義 12. 多文化共生にかかる具体的活動とはどのようなものか(外部講師) 13. 後期の授業との関係—グローバル化と国際協力の関係とは何か 14. レポートの書き方指導 15. まとめ 本講では、予算の許す範囲において、大学の外にある人材を外部講師として学内に招き、多文化共生や国際協力・国際交流の現場について語っていただくので、外部講師が話をされる回については必ず参加するようにしてください。外部講師が来校される日程については、決まり次第、講義の中で伝達するが、外部講師のスケジュールもあるので上のおりとならないことはあらかじめ了承してほしい。					